

2015年度ブラジルの牛肉事情調査

2016年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）
サンパウロ事務所

本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

はじめに

海外での寿司ブームや、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録などで人気が高まっている日本食の中であって、日本産牛肉も近年海外で注目を浴びている。

2015年12月、日本政府とブラジル政府当局は日本産生鮮牛肉の輸出条件を締結した。今後、ブラジル政府当局検査官による現地調査を経て、厚生労働省が定める手続に基づく認定を受けた施設からブラジル向けの輸出が可能となる。

ジェトロは輸出解禁の動きに併せ、中長期的に日本産牛肉をブラジルに輸出し、市場拡大を希望する事業者に対して、ブラジル国内の牛肉市場についての詳細な情報提供をすることを目的として調査を実施、ブラジルにおける牛肉の市場規模、輸入量および国内市場の嗜好など、各種統計、関係者へのヒアリング等を元にレポートを作成した。

本調査が輸出をご検討される関係各位のご参考となれば幸いである。

目次

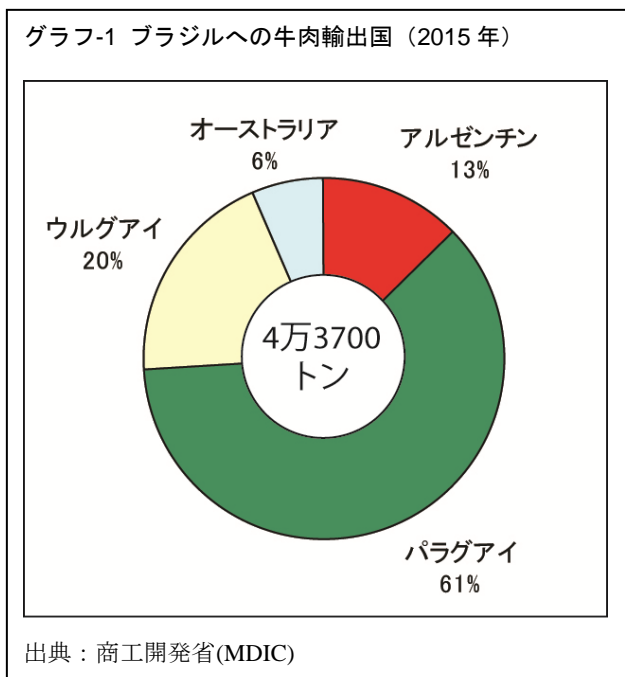
1	ブラジルの牛肉輸入	1
1.1	輸出国と輸入量.....	1
1.2	食肉輸入業者.....	3
1.3	メルコスール（南米南部共同市場）.....	3
2	ブラジルの牛肉生産と消費	4
2.1	生産量.....	4
2.2	主な食肉メーカー.....	6
2.2.1	JBS S. A.	6
2.2.2	BRF S.A.	6
2.2.3	Marfrig Global Foods S.A.	6
2.2.4	Minerva S.A.	7
2.3	ブラジルの牛肉消費量.....	7
2.4	ブラジル人の牛肉の消費の仕方.....	7
3	ブラジルの高級牛肉と「Wagyu」	8
3.1	高級肉市場.....	8
3.2	ブラジルの「Wagyu」.....	8
3.3	「Wagyu」を使用しているレストラン.....	9
3.4	「Wagyu」のマーケティング.....	9
4	牛肉の流通	10
4.1	国産牛肉.....	10
4.2	輸入牛肉.....	10
5	補足データ	11
5.1	所得階層別の牛肉消費量.....	11
5.2	ブラジルの所得クラス.....	12

【参考資料】

- 食肉店での「Wagyu」その他高級牛肉の価格
- 牛肉及び Wagyu 関係機関

1 ブラジルの牛肉輸入

1.1 輸出国と輸入量



2015年のブラジルの牛肉（冷凍、冷蔵）の輸入量は、ブラジル商工開発省（MDIC - Ministério do Desenvolvimento, Indústria e Comércio）の統計によると4万3,700トン、金額はFOBベースで2億5,643万ドルだった¹。輸出国はアルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ、オーストラリアで、4カ国でほぼ100%を占めている。

もっとも輸出量が多いのがパラグアイで全体の61%を占めた。続いてウルグアイ（20%）、アルゼンチン（13%）が続き、南米外のオーストラリアが6%となった（グラフ-1）。

なお、2015年のブラジルの牛肉輸出品

表-1 各国のブラジルへの牛肉の輸出品・金額

	アルゼンチン		パラグアイ		ウルグアイ		オーストラリア	
	FOB (千ドル)	重量(トン)	FOB (千ドル)	重量(トン)	FOB (千ドル)	重量(トン)	FOB (千ドル)	重量(トン)
2015	50,478	5,549	125,033	26,712	55,396	8,609	25,514	2,829
2014	76,317	6,761	197,177	35,574	83,982	12,335	31,177	3,627
2013	68,882	6,194	108,085	21,512	75,435	11,204	24,301	3,082
2012	89,050	6,980	103,435	22,004	81,644	12,751	18,488	2,364
2011	95,800	7,168	40,040	7,213	85,117	12,365	11,298	1,410
2010	70,084	7,874	34,152	6,357	53,933	9,490	2,355	278

出典：商工開発省(MDIC)

¹ 冷凍牛肉（NCM 02021000～02023000）と冷蔵牛肉（NCM 02011000～02013000）の合計で、内臓類は含まれていない。NCM：ブラジル輸出入税率統計品目番号

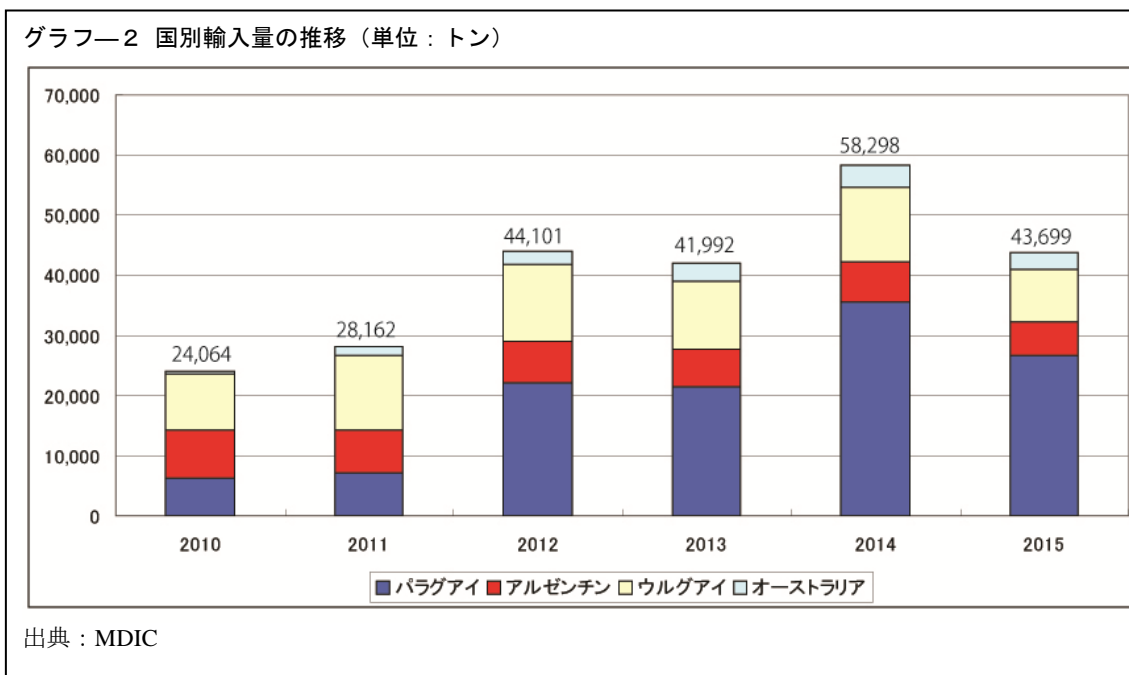
は 107 万 8200 トン²だった。それと比べると輸入量は輸出量の 4%の規模でしかない。後で述べるが、ブラジルは世界第 2 位の牛肉生産国である。

これらの国のうち、高級とされる牛肉を輸出しているのはアルゼンチン、ウルグアイ、オーストラリアの 3 国である。アルゼンチン、ウルグアイの牛肉はアンガス種が中心で、ブラジルで主に飼養されているゼブー種より肉質の柔らかさが勝るために高値で取引され、高級レストランを中心に需要がある。ブラジルの大手食肉企業は現地企業の買収を通じて両国にさかんに進出しており、それらの現地会社で生産される牛肉を中心に輸入している。ウルグアイは大部分を輸出向けに生産しているという。

本調査のためにヒアリングした大手食肉メーカーの担当者によると、輸入しているのはブラジルでピッカーニャ（イチボ）と呼ばれる部位が主流である。ピッカーニャはブラジルでシュラスコ用として需要が大きく、国内生産で足りない分を輸入で補っているという。また、一部、両国で生産される「Wagyu」もブラジル向けに輸出されている。

一方、最大の輸出国のパラグアイからはゼブー種の肉が輸出されている。同国のブラジル向け輸出は、ブラジル国内の生産と需要の調節弁的な役割をしており、牛肉の国内生産量が不足すると輸入が増える。ブラジルの食肉業者がパラグアイへ進出しており、そういう企業が輸出の中心である。パラグアイからの輸入量は 2012 年から急増している。それまでパラグアイで発生した口蹄疫のため、ブラジル政府が輸入禁止また制限処置を断続的にとってきたが、それが解除されたためである。

表一 1 で輸入量の推移を見ると、アルゼンチンからの輸入は減少傾向にある。これはフェルナンデス前大統領の時代に国内需要を優先させて輸出制限を行っていた結果である。2015 年 11 月に就任したマクリ新大統領は解放政策をとると見られており、対ブラジル牛



² Associação Brasileira das Indústrias Exportadoras de Carnes (Abiec), *Exportações Brasileiras de Carne Bovina*

肉輸出も増加すると思われる。

オーストラリア産牛肉は輸入量全体に占める割合は小さいが、2011年の278トンから2015年の2,829トンと10倍以上増加した。ブラジル国内における高級嗜好の需要が増え、それに対応して増加したとみられる。その中には「Wagyu」も含まれている。

グラフー2は輸入量の全体と国別の推移である。全体では2014年をピークに、2015年の輸入量は大きく減少した。パラグアイ産牛肉の輸入減少が影響しており、ブラジルの景気後退による中間所得者層の需要減少、およびレアル安が影響していると思われる。

1.2 食肉輸入業者

フリゴリフィコ（Frigorífico）と呼ばれるブラジルの食肉業者は、2000年代に入ってから特にグローバル化を目指し、海外企業の買収を進めてきた³。それらのグループはアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイに拠点を持って生産、販売を行っている。ブラジルに輸入される牛肉は、これらブラジルの食肉メーカーが、海外で生産した食肉の一部をブラジルに輸出しているケースが多い。正確なデータはないが、ブラジルに輸入される牛肉の大きな部分がこれらのグループによって担われているものと思われる。それ以外に小規模の輸入卸業者も存在し、独自のルートで輸入し、レストランやスーパーを含む小売店に卸している。

1.3 メルコスール（南米南部共同市場）

ブラジルはメルコスールに加盟しており、その恩典でアルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイからの牛肉は非課税で輸入されている。

メルコスールは、1991年にブラジルとアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイの4か国で発足した関税同盟である。2006年にベネズエラが加盟した。関税政策としては、メルコスール対外共通関税（TEC）を設定して全品目の約85%に当たる品目（約9,000品目）につき対外共通関税率（0～20%）を適用している。各加盟国はそれぞれにセンシティブな業種や品目に関しては、TEC例外品目を設定して世界貿易機関（WTO）で認められた枠内で税率を個別に設定する。TEC例外品目の場合は、域内であっても自由に（自由貿易圏、あるいは自由貿易協定のように）取引することはできない。

³ 最大手のJBSは2007年に米国のSwiftグループを買収することによって世界一の牛肉生産メーカーとなっている。

2 ブラジルの牛肉生産と消費

2.1 生産量

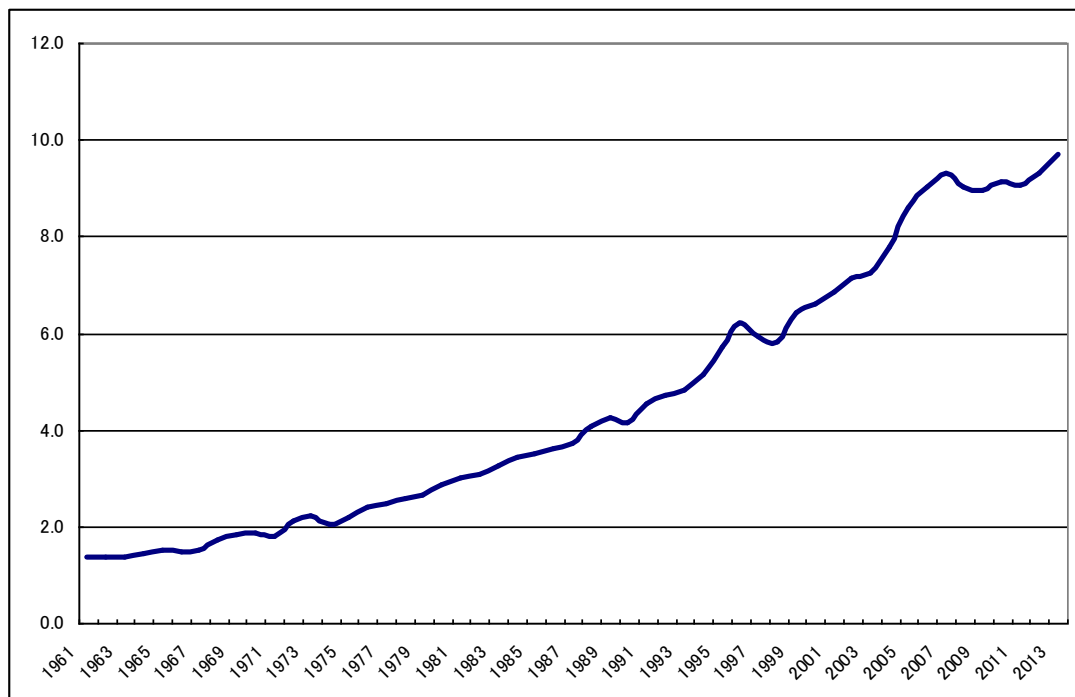
ブラジルは牛肉の生産、消費ともに米国に次いで世界第2位であり、畜産大国となっている。2015年の牛肉生産量は枝肉ベースで920万6,100トンだった⁴。2010年からの生産推移は表-2に見るとおり。2011年から2015年間の平均生産量は899万トンである。

表-2 ブラジルの牛肉生産量と輸出量（単位：千トン）

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	8,782.5	8,448.4	8,751.7	9,601.9	9,160.3	9,206.1
輸出量	950.8	819.9	956.5	1,189.4	1,227.1	1,078.2

出典：生産量=CONAB - Companhia Nacional de Abastecimento、輸出量=ABIEC - Associação Brasileira das Indústrias Exportadoras de Carnes。内臓類、加工肉を除く。

グラフ-3 ブラジルの牛肉生産量の推移（単位：百万トン）



出典：FAO - Food and Agriculture Organization of the United Nations

⁴ 全国供給公社（CONAB - Companhia Nacional de Abastecimento）の月報『Indicadores da Agropecuária』（2016年1月）

表—3 ブラジル産牛肉の輸出先上位 6 カ国（2015 年、トン）

	国	輸出量
1	エジプト	178,008
2	ロシア	169,457
3	香港	165,517
4	イラン	97,469
5	中国	97,450
6	ベネズエラ	93,269

出典：ABIEC - Associação Brasileira das Indústrias Exportadoras de Carne

表—4 世界各国の牛肉生産量（2015 年、単位：千トン）

1	米国	10,861
2	ブラジル	9,425
3	EU	7,540
4	中国	6,750
5	インド	4,200
6	アルゼンチン	2,740
7	オーストラリア	2,550
8	メキシコ	1,845
9	パキスタン	1,725
10	ロシア	1,355
11	カナダ	1,025
	その他	8,427

出典：USDA - U.S. Department of Agriculture

表—5 世界各国の牛肉消費量（2015 年、単位：千トン）

1	米国	11,400
2	ブラジル	7,870
3	EU	7,610
4	中国	7,350
5	アルゼンチン	2,510
6	インド	2,200
7	ロシア	2,047
8	メキシコ	1,765
9	パキスタン	1,661
10	日本	1,210
11	コロンビア	894
	その他	9,949

出典：USDA - U.S. Department of Agriculture

国際連合食糧農業機関（FAO - Food and Agriculture Organization of the United Nations）の統計でブラジルの牛肉生産量の長期動向（1961～2013 年）を見ると、グラフ—3 のようになる。これで見ると 2013 年までに 1961 年の 6 倍に増えている。生産量が急増しているのは 2000 年代に入ってからで、国内の経済成長による需要増加、輸出増加が背景にある。輸出量は 2010 年から 2015 年の間に約 13% 増えている（表—2）。主な輸出先国はエジプト、ロシア、香港、ベネズエラである（表—3）。ブラジルの生産量は米国に続いて世界第 2 位のポジションを占めている（表—4）。また

国内の消費量は 787 万トンで米国に次いで世界 2 位である（表—5）。

2.2 主な食肉メーカー

ブラジルの食肉メーカーは 2000 年代に入ってから吸収合併を繰り返して、現在では事実上、次のような 4 社に絞りこまれている。また、すべてのグループが各国の食肉メーカーを買収してグローバル市場に進出しており、ブラジル国内の食肉を輸出するだけでなく、各国で生産活動を行って直接世界市場に輸出している。したがってこれらのグループはブラジル国内で大手というだけでなく、世界でも最大規模であり、JBS 社にいたっては世界最大の売上規模を誇る。以下、各社の概要を紹介する。

表—6 は各社の 2014 年の売上げをまとめたものである。

表 6—ブラジルの大手食肉メーカー（2014 年）

JBS S.A.	1204 億 6970 万リアル
BRF S.A.	290 億 698 万リアル
Marfrig Global Foods S.A.	210 億 7330 万リアル
Minerva S.A.	69 億 8220 万リアル

出典：Valor Economico, Valor 1000, 2015

2.2.1 JBS S.A.

1953 年にゴイアス州で設立された。2007 年に米国の Swift 社を買収して世界最大の食肉メーカーになる。全世界に 340 の生産拠点を持ち、総従業員数は 34 万人。輸出メーカーとしても最大で 150 カ国以上に輸出している。ブラジル国内には 42 の処理工場、16 の流通センターを持ち、1 日の処理能力は 4 万 5,000 頭。

2.2.2 BRF S.A.

BRF 社は伝統的な食肉メーカーである Sadia 社と Perdigão 社が 2009 年に合併してできた企業グループである。ブラジル国内に 35 カ所、国外に 13 カ所（アルゼンチン、英国、オランダ、タイ）生産拠点を持ち、全従業員数は 10 万 5,000 人。経営審議会会長に大手スーパーマーケットグループの一つである GPA（Grupo Pão de Açúcar）の元会長のアビリオ・ジニス氏が就任したことから大きな成長が見込まれている。

2.2.3 Marfrig Global Foods S.A.

2000 年に設立。46 カ所の生産拠点をもつ。輸出先国は 100 カ国以上。2006 年にウルグアイ、2008 年にアイルランド、2009 年に米国に進出、世界 3 位の生産量となっている。

2.2.4 Minerva S.A.

1992年にサンパウロ州で設立。ブラジル国内に8カ所、パラグアイに2カ所、ウルグアイに1カ所の生産拠点をもつ。配送センターはブラジルに8カ所、パラグアイに1カ所もち、またアルジェリア、中国、チリ、米国、イラン、レバノン、ロシアに販売事務所をかまえている。全世界100カ国以上に輸出。1日の処理能力は2万300頭。

2.3 ブラジルの牛肉消費量

ブラジルの国民1人あたりの牛肉消費量は、2008年/2009年に実施された最新の家計調査⁵のデータによると、家庭内の消費が一人当たり17.0キロ、外食での消費が23.1キロとなっており、合計して40.1キロになる。また、米国農務省などのデータを三井物産戦略研究所が集計したデータで他国と比較すると表7のようになり、世界でアルゼンチンに続いて2位であり、米国を若干上回る。

表7 各国の1人当たり年間牛肉消費量（2012年、キロ）

国	量
アルゼンチン	59.9
ブラジル	39.9
米国	37.4
オーストラリア	32.5
メキシコ/南アフリカ	15.7
EU	15.3

出典：三井物産戦略研究所、「世界の食肉需要の動向と飼料用穀物」 2014年5月

2.4 ブラジル人の牛肉消費

ブラジルで牛肉は主にステーキにしたり、野菜と一緒に煮込んだりして消費される。ステーキを主食の米やフェイジョン豆と一緒に食べるのは、典型的なブラジルの昼食スタイルである。

また人気があるのはシュラスコ（串焼きバーベキュー）である。岩塩で味付けし、各部位ごとの固まりを串に刺して炭焼きにして食べる。専門のレストラン（シュハスカリア）はもちろん、キロ売りのビュッフェレストランでもシュラスコの焼き場を用意して提供しているところも多い。シュラスコは家庭でのパーティーでも用意されることが多く、そういうパーティーでは大量の肉が消費され、ブラジル人の肉好きを垣間見ることができる。因みにもっとも人気のある部位はピッカーニャ（イチボ）と呼ばれる尻に近い部位である。

煮込み料理には薄切り牛肉で野菜を巻いて煮込んだもの（Bife à Rolê）や小さく切り分けて煮込んだものがあり（Picadinho）、庶民に親しまれている。

⁵ POF - Pesquisa de Orçamentos Familiares 2008/2009

3 ブラジルの高級牛肉と「Wagyu」

3.1 高級肉市場

ブラジルの国内市場で流通する牛肉は、ネローレと呼ばれるゼブー種が 90%以上を占める。ネローレは熱帯性の気候によく耐え、放牧に適していることからブラジルで広く飼養繁殖されている。しかし、外食市場の成熟からアンガス種などの高級牛肉の需要が増加し、ステーキハウス、高級食肉店、高級スーパーマーケットで流通するようになっている。

高級食肉店はブラジルではブティック・ヂ・カルネ（食肉ブティック）と呼ばれ、国産高級肉を中心に販売しているが、アルゼンチン、ウルグアイあるいはオーストラリアからの輸入肉も仕入れて販売しており、輸入業者の卸先になっている。

大手食肉メーカーの高級肉・輸入牛肉の販売担当者に聞いたところ、販売量は高級食肉店よりレストランの方が多いと回答があった。高級肉は外食市場を中心に流通していると考えられる。高級食肉店はシュラスコ用の肉が中心で、濃厚飼料による肥育で質も上がってきていることから、国産の高級肉でまかなえるという。

レストランはいわゆるステーキハウスが中心である。高級シュハスカリアでも一部提供されるが、最高級牛肉はロジージオ（食べ放題システム）にはコスト面で適さないため、高級ステーキハウスで消費される。そうした店では客が好みの部位や品種をアラカルトで注文するようになっており、焼き加減の調整など調理レベルは高く、舌の肥えた客を満足させている。

3.2 ブラジルの「Wagyu」

ブラジルへの「Wagyu」の導入は 1990 年代初めから始まった。中心的な役割を果たしたのは日本の食品メーカーである。サンパウロ市から北へ約 67 キロ行ったブラガンサ・パウリスタ市に専用の牧場を所有して品種改良と精液の販売を行っている。またレストラン向けに販売も行っている。最初の生体は米国から輸入された。

現在、ブラジル全国に 50 の Wagyu 生産者が存在し、約 5,000 頭の純血種が飼育されている⁶。生産者の一人にヒアリングしたところ、混血を含めて全国で約 1 万頭の Wagyu が飼われているという。アバディーンアンガス種、ブランガス種などとの交配も進んでおり、中西部のマットグロッソ州ではゼブー種と交配し、放牧で育てている牧場も存在する。

さらにウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリアで生産されている「Wagyu」も輸入・流通している。

「Wagyu」の部位でもっとも高価なのがコントラ・フィレと呼ばれるサーロインである。

⁶ Globo Rural, 2015 年 3 月 8 日
g1.globo.com/economia/agronegocios/noticia/2015/03/boi-japones-da-carne-mais-saborosa-e-mais-cara-do-mundo.html

グローボ系のニュースサイトG1の報道によると、生産者価格は25キロで4,000リアル(※)、小売価格で1キロ当り300リアル(2015年)になるという⁷。「Wagyu」の流通に関わっている人に聞いたところ、すべての部位が高値で販売できるわけではなく、残りの部位をどのように販売・流通処理するかが課題であるという。「Wagyuハンバーガー」という商品も市場に存在する。※1リアル=28.4円、2016年3月時点

これまで混血種も一様に「Wagyu」「和牛」あるいは「Kobe Beef」と表現されることが多かったが、近年、ブラジル和牛生産者協会(Associação Brasileira dos Criadores de Bovinos da Raça Wagyu)が中心になって、認証制度の導入が準備されている。担当する認証団体はTÜV Rheinland Brasilで、アバディーンアンガス種の認証などでも実績がある。制度を整えば、ブラジル農務省の農畜産管理プラットフォーム(PGA - Plataforma de Gestão Agropecuária)を通じて登録、認証シールが発行されるようになる⁸。

3.3 「Wagyu」を使用しているレストラン

ブラジルの名物料理として、シュラスコがよく知られている。串刺しにした固まり肉をそぎ切りにして提供するもので、いわゆる「食べ放題」の料金システムになっている。しかし、「Wagyu」を含む最高級牛肉がシュラスコレストランで提供されることはほとんどない。理由は仕入れ価格である。「Wagyu」の場合、高級部位の仕入値は1キロ当り300リアル以上になるため、客単価が200リアル以上で、アラカルトでサービスする高級ステーキハウスで使用される。

3.4 「Wagyu」のマーケティング

1990年代に「Wagyu」生産が開始されてから、物珍しさもあってマスコミが盛んに報道したこともあり、「Wagyu」の知名度は高まりつつある。また、生産量も増えたことから供給も安定してきているといわれる。

しかし、大手食肉メーカーの高級肉の担当者にヒアリングしたところ、「Wagyu」はまだニッチなマーケットに供給されているのみで、市場は大きな広がりを見せていない。担当者は「Wagyu」の市場拡大を阻害している理由として、消費者への広報と、調理人に対する調理方法の提供が欠けていることを指摘した。「Wagyu」の最大の特徴は、肉質が霜降りで脂が多いことである。ブラジル人は赤身肉を大量に食べる習慣があるため、同じやり方で食べるには「Wagyu」は重く感じられ、それが普及の足を引っ張っているという。

このことから、「Wagyu」の普及のためには分厚いステーキ以外の料理方法を開発し、レ

⁷

<http://g1.globo.com/sp/campinas-regiao/noticia/2015/11/carne-gourmet-de-r-300-o-quilo-tem-publico-fiel-e-busca-selo-de-pureza.html>

⁸ Valor Econômico, 2015年10月14日

レストランや消費者に伝えていくことが必要だと思われる。すでに、すき焼き、しゃぶしゃぶ、網焼きなどの食べ方を知っている日本料理店へのアピールも一つの方法である。本調査にあたり「Wagyu」を扱っているレストランを調べたが、日本食レストランはわずかな数が出てくるだけで、まだまだ浸透していないことがわかった。

4 牛肉の流通

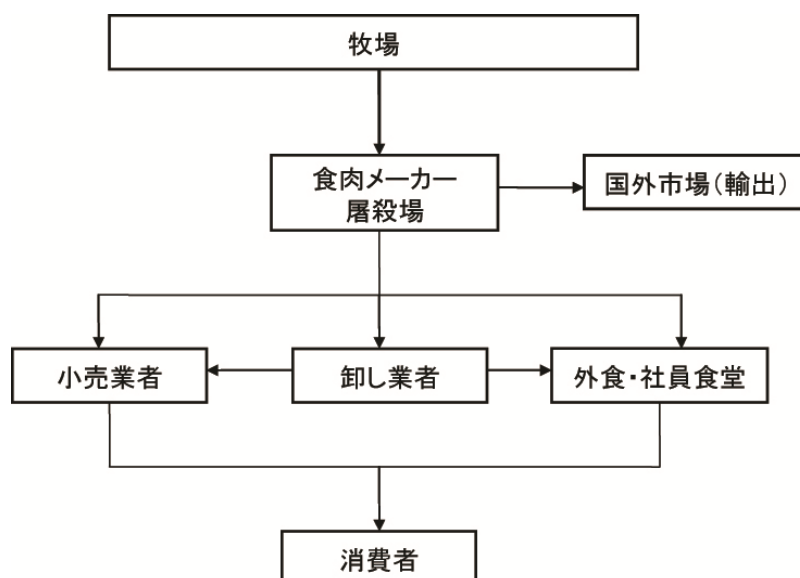
4.1 国産牛肉

国産牛肉は大部分が大手食肉メーカーによってと畜され、加工される。食肉メーカーは契約牧場、また独立系の牧場から家畜を仕入れてと畜する。国内市場向けの食肉は小売業者（スーパーマーケット、食肉店）、卸業者、外食市場に卸される。大手食肉メーカーは自社で販売部門を持っており、卸を通さず直接スーパー、レストランと取引する場合が多いという（図-1）。

4.2 輸入牛肉

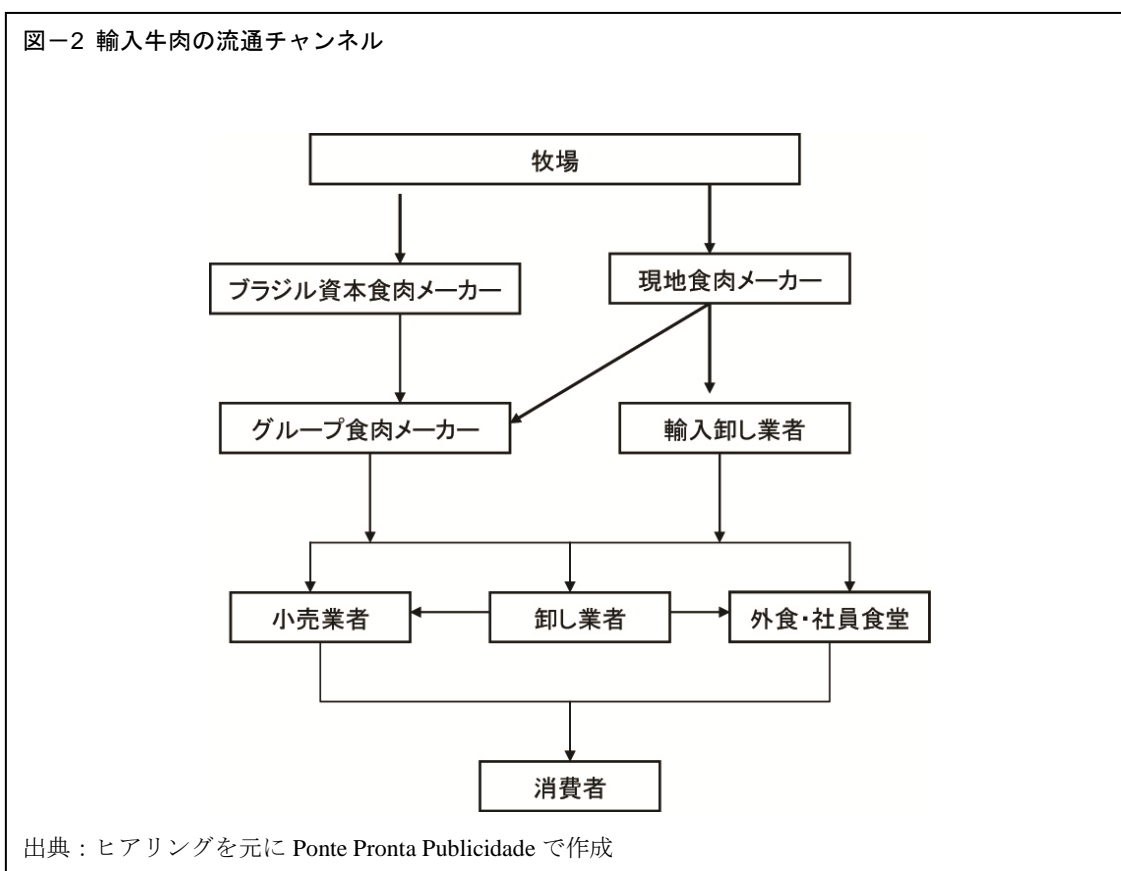
輸入牛肉の場合は、ブラジル資本と各国の地場資本の食肉メーカーがブラジル向けに輸出している。ブラジルの食肉メーカーはグループ会社の製品を主に輸入するが、他のメーカーのものを扱うこともある。また大手以外の輸入卸業者も存在し、独自に輸入して主に

図-1 国産牛肉の流通チャンネル



出典：ヒアリングを元に Ponte Pronta Publicidade で作成

高級スーパー、高級食肉店、高級レストランに販売している（図-2）。



5 補足データ

5.1 所得階層別の牛肉消費量

ブラジルは所得格差の大きい国であり、それは消費行動にも反映されている。表-8は2008/2009年にブラジル地理統計院（IBGE・Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística）が実施した家計調査（POF・Pesquisa de Orçamentos Familiares）で、1人当たりの牛肉の年間消費量を所得階層別（世帯所得）に調べたものである（所得額は当時のまま）。同調査では上級牛肉（Carnes bovinas de primeira）、2級牛肉（Carnes bovina de segunda）とその他の牛肉（Carnes bovinas outras）に分けて調べられており、その中で上級牛肉のみを抜き出した。月間の世帯所得6,225レアル以上のグループの消費量は全体の85%以上も上回っており、最低所得者層と比べると実に4倍以上の消費量となっている。なお、この消費量は家庭内でのもので、外食での消費量は含まれていない。和牛は上級牛肉の中でもトップに位置づけられるものであり、したがってターゲットは当然、高所得者層になる。

表—8 所得階層別の1人当り上級肉の年間消費量(2008年)

所得階層(世帯所得)	家庭内での上級肉の消費量(キログラム)
全体	6,1
所得 6,225 レアル	11,3
所得 4,150～6,225 レアル	9,6
所得 2,490～4,150 レアル	8,0
所得 1,245～2,490 レアル	5,7
所得 830～1,245 レアル	4,3
所得 830 レアル以下	2,8

出典：IBGE, POF 2008/2009

5.2 ブラジルの所得クラス

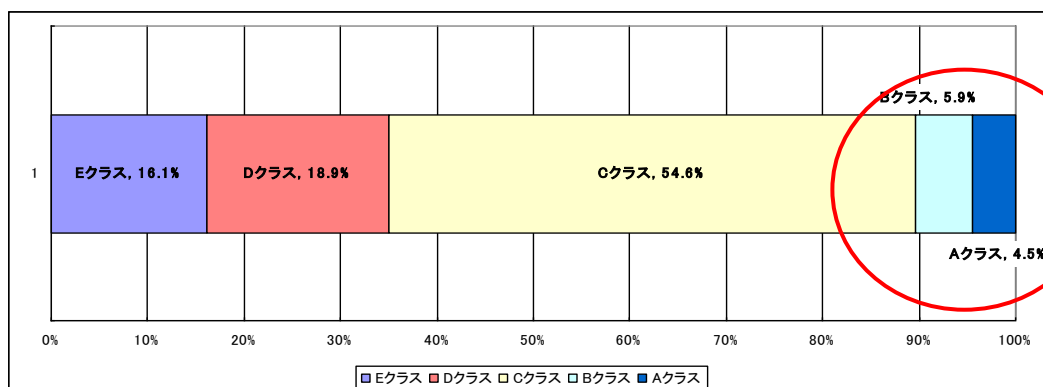
ブラジルの社会階層の分布は、ブラデスコ銀行が IBGE のデータを元にまとめたものによると表-9、グラフ-4 のようになる。単純計算ではあるが、月間所得が 9,954 レアル以上の高所得者 (A クラス) は国民全体 (2 億 301 万人) の 4.5%、その下の B クラスは 5.9%となる。ブラジルでいわゆる高級レストランに出入りするはこの AB クラスまでであり、上から 10%の高所得者層 (約 2,000 万人) である。2000 年代はじめからの経済成長で存在感を増してきた「新中間階層」としての C クラス (54.6%) の層は厚いが、消費で優先されるのは耐久消費財であり、高級レストランでの外食まではあまり手が届かない。

表—9 所得階層分布 (2015 年 11 月)

社会クラス	所得 (世帯所得)	割合
A クラス	9,954 レアル以上	4.5%
B クラス	6,585～9,954 レアル	5.9%
C クラス	1,646～6,585 レアル	54.6%
D クラス	995～1,646 レアル	18.9%
E クラス	995 レアルまで	16.1%




出典：Bradesco, Destaque Depec, 2016 年 1 月 13 日





グラフ-4 所得階層分布 (2015 年 11 月)







出典：Bradesco, Destaque Depec, 2016 年 1 月 13 日





【参考資料】

食肉店での「Wagyu」とその他高級牛肉の価格		
(1 レアル=28.4 円、2016 年 3 月 1 日、ブラジル中央銀行)		
食肉店 : Angus Beef (www.aangus.com.br)		
部位	1 キロ当り価格	写真
「Wagyu」プライムリブ	134.99 レアル	
「Wagyu」T ボーン	139.90 レアル	
「Wagyu」ピッカーニャ (イチボ)	259.99 レアル	





<p>「Wagyu」サーロイン</p>	<p>229.99 レアル</p>	
<p>「Wagyu」アンチョ (Ancho)</p>	<p>229.99 レアル</p>	
<p>「Wagyu」肩ロース</p>	<p>95.99 レアル</p>	
<p>「Wagyu」ショートリブ</p>	<p>79.90 レアル</p>	






「Wagyu」 ランプ	69.99 レアル	
「Wagyu」 三角バラ	96.99 レアル	
「Wagyu」 バラ肉	159.99 レアル	
「Wagyu」 カルビ (Tira)	159.99 レアル	






<p>「Wagyu」アバラ肉(骨付き)</p>	<p>49.99 レアル</p>	
<p>アンガス・アンチョ (Ancho)</p>	<p>79.99 レアル</p>	
<p>オーストラリア産アンガスのピッカーニャ (イチボ)</p>	<p>96.99 レアル</p>	
<p>アンガス・カーボーイステーキ</p>	<p>94.99 レアル</p>	



<p>ブラックアンガスのピッカーニャ (イチボ)</p>	<p>79.99 レアル</p>	
<p>アンガス・プライムリブ</p>	<p>99.99 レアル</p>	
<p>ブラックアンガスのピッカーニャ (イチボ)</p>	<p>199.99 レアル</p>	
<p>レッドアンガスの T ボーン</p>	<p>99.99 レアル</p>	

食肉店 : Frigo Central (www.frigocentral.com.br)		
「Wagyu」 サーロイン	160.00 レアル	
「Wagyu」 サーロイン	299.99 レアル	
アンガス・ピッカーニャ (イチボ)	89.99 レアル	
オーストラリア産ブラックアンガス種のピッカーニャ	69.99 レアル	

食肉店 : Sabor DOC (sabordoc.com.br)		
「Wagyu」 サーロイン	345.60 レアル	
「Wagyu」 ピッカーニャ	297.00 レアル	
「Wagyu」 サーロイン	297.00 レアル	
「Wagyu」 ハラミ	153.00 レアル	

「Wagyu」 T ボーン	345.60 レアル	
「Wagyu」 フィレミニョン	198.00 レアル	
「Wagyu」 アバラ肉	178.20 レアル	
「Wagyu」 三角バラ	210.60 レアル	
「Wagyu」 アバラ肉	110.50 レアル	

「Wagyu」 ベビービーフ	165.60 レアル	
「Wagyu」 ショートリブ	145,50 レアル	
アンガス種ピッカーニャ	180,00 レアル	
アンガス種サーロイン	174.60 レアル	
アンガス種サーロイン	158.40 レアル	

アンガス種プライムリブ	174.60 レアル	
アンガス種アバラ肉 (骨付き)	124,20 レアル	

牛肉及び和牛関係機関

ブラジル和牛生産者協会

Associação Brasileira dos Criadores de Bovinos da Raça Wagyu

Estrada Bragança - Amparo km 07 - Caixa Postal 162 - Bragança Paulista – SP

CEP 12.914-970

Tel.: (11) 4481-8800

www.wagyu.org.br

1996年設立。「Wagyu」の生産者で組織され、広報、クラシフィケーション、品種改良などに取り組んでいる。日本の食品メーカーのヤクルト社が中心になっている。

サンパウロ生鮮牛肉販売者協会

Sindicato do Comércio Varejista de Carnes Frescas de São Paulo

Praça da República, 180 – 6º andar – São Paulo – SP

Tel.: (11) 3231-3113

www.carnesvarejo.com.br

1941年に設立された食肉店のシンジケート。物価統制その他の経済政策に対して業界を代表して活動してきたが、近年は中小規模の販売業者の代表としてのポジションにある。

ブラジル食肉輸出者協会

Associação Brasileira das Indústrias Exportadoras de Carnes (Abiec)

Av. Brigadeiro Faria Lima, 1912 - 14º andar - Conjunto J - São Paulo – SP

CEP 01451-000

Tel.: (11) 3531-7888

<http://www.abiec.com.br>

1979年設立。大手を含めブラジルの主な食肉メーカーが加盟している最大の業界団体。

ブラジル・アンガス種協会
Associação Brasileira de Angus

Largo Visconde Do Cairú, Nº 12 – Conj. 901 – Centro - Porto Alegre - RS

CEP: 90030-110

Tel: (51) 3328.9122

<http://angus.org.br>

アンガス種の生産者で組織されている団体。広報、技術の普及活動をしている。

2015 年度ブラジルの牛肉事情調査

2016 年 3 月作成

作成者 日本貿易振興機構(ジェトロ) サンパウロ事務所

農林水産・食品部 農林産品支援課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

Tel. 03-3582-8348
